

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和2年度 第1回益田市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和3年3月26日（金）午前10時～11時30分
開催場所	益田市立市民学習センター2階 研修室203
出席者	審議会委員 出席11名 欠席1名 事務局2名
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	無
次 第	1. 福祉環境部長あいさつ 2. 議題1 会長の選任について 議題2 副会長の選任について 議題3 益田市一般廃棄物最終処分場施設整備基本構想について 3. その他
議題1	会長の選任について ・事務局案を審議のうえ会長を選任。
議題2	副会長の選任について ・事務局案を審議のうえ副会長を選任。
議題3	益田市一般廃棄物最終処分場施設整備基本構想について
委 員	○質疑応答 ・年間処分量は一定量で推移する見込になっているが、人口減少といった要因を考慮のうえ処分量の推定はされているのか
市	・人口減少に伴う処分量の減少が考えられるが、今後の社会情勢の変化には予想しきれない部分もあることに加え、処分量を少なく見積もったことで今後の計画に支障が出る可能性を除くため、予想される最大限の数値により見込みを立てている。
委 員	・埋立期間は1施設で15年と設定し、予め2～3施設分の用地確保を前提に検討することのだが、場所の確保に伴う施設の建物はどう考えているのか。
市	・建設する処分場の形式にも関係するが、最初の施設で利用した建物を移設して次の施設に利用することも考えられる。これから計画していく中で費用対効果に優れた方法を検討していきたい。
委 員	・工期が長いとそれだけコストも多額になる。地元対応に期間を要するのは理解するが、その他の部分で工期を短くすることはできないか。
市	・全国における例を参照しても、最終処分場の整備には約10年は必要であると思われるが、現処分場の残余容量を考慮すれば次期処分場の早期整備が望ましいのは確かである。早めに事業を進めることに留意していきたい。
委 員	・次期処分場がオープン型と被覆型のどちらの形式になるのかは、どの時期に決定されるのか。

市 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点では、次年度には決定したいと考えている。</li> <li>・次期処分場の形式により建設に適した用地の条件が異なると思われるが、形式が次年度に決まるとしたら、それにより用地選定の時期は工程計画から後ろに動いてしまうのではないか。</li> </ul>
市 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用地選定には、道路が整備済であることや法的規制が掛かっていないなど前提条件を踏まえてある程度候補地を絞り込み、そこから選定していくことになる。次期処分場の形式と用地選定は同時進行で行う必要があると考えている。</li> <li>・次期処分場では周辺自治体を含んだ埋立処分とする考えはないのか。既設の焼却場やし尿処理場は周辺自治体を含んで処理を行っている実態があるはず。</li> </ul>
市 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に益田市で収集されたもののみを埋立処分する。例外として、クリーンセンター（焼却場）から搬入される焼却灰については、クリーンセンターが広域市町村圏事務組合で運営されているため、津和野町や吉賀町由来の焼却灰が含まれている形になるが搬入量等を勘案した費用負担はされているものである。</li> <li>・工程計画で3年目までに予定されている用地選定、地元説明、用地交渉のプロセスが重要である。予定がずれていくことのないよう注意してほしい。</li> </ul>
市 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工程計画の3年目までの部分が上手く進まないと振り出しに戻ってしまう。慎重に且つスピーディーに進めていきたい。</li> <li>・次期処分場における最終処分量について、し尿残渣（沈砂）が4t/年から6t/年というように1.5倍に増加する方向で見積もられている。人口減少の中で増加する方向で見積もった理由は何か。</li> </ul>
市 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合併浄化槽の普及や公共下水道の汚泥の搬入等が要因と考えられる。</li> <li>・次期処分場における最終処分量について、クリーンセンターの灰溶融設備を停止し、飛灰を資源化せず埋立てる予定とあったが、灰溶融設備を停止する理由は何か。</li> </ul>
市 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスト面が主な理由である。なお、飛灰についても資源化による費用対効果を検討しており、資源化が可能となれば飛灰の搬入はなくなる。</li> <li>・近年発生した災害関連の報道等によると、災害廃棄物について隣接する自治体で災害廃棄物の受入協力などを行っているが、そのような事態は考えているのか。</li> </ul>
市 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県の担当課、場合によっては他県の自治体を含めて連携しながら対応していきたい。次年度には益田市独自の災害廃棄物処理計画の策定を予定しており、災害廃棄物の円滑な処理ができるようにしていきたい。</li> <li>・現処分場に搬入されている海岸漂着物について、処理を民間委託とする予定とあるが、理由は何か。</li> </ul>
市 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現処分場への搬入を取りやめることで、施設の延命化を図るという意味合いもある。各種団体や地域が清掃活動で収集したものを含む海岸漂着物は、市が間に入り処分を民間に委託とするということである。</li> <li>・次期処分場の計画埋立量について、埋立期間全体（15年間）を計画埋立量が、年ごとの計画埋立量の合計と数値が合致していないのではないか。</li> </ul>
市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害廃棄物は、埋立期間全体（15年間）のうち3年間だけ入ってくるという前提</li> </ul>

<p>委員</p> <p>市</p> <p>市</p>	<p>で計算している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先に処分場を整備した自治体に対して、形式（オープン型、被覆型）を選んだ理由や運用開始後のメリット・デメリットなどを調査し、参考になる情報を増やすようにしてほしい。</li> <li>・現地視察を2ヵ所で行ったが、実際に見聞すると多くの情報が得られると実感している。情報収集に努力したい。</li> </ul> <p>※次年度予定している次期処分場の整備に向けた検討委員会の設立についての説明と当審議会委員の検討委員会への参加についての打診を行い、出席委員一同の内諾を得た。</p>
<p>その他</p>	<p>益田市災害廃棄物処理計画について（報告）</p> <p>※次年度に予定している益田市災害廃棄物処理計画についての概要説明を行った。</p> <p style="text-align: center;">— 議事終了 —</p>